令和３年度　埼玉県農業大学校評価システムシート

教　育　方　針	1　農業経営に必要な技術と知識を備えた実践力のある人材の育成 2　グローバルな視点と企業的経営感覚を身につけた人材の育成 3　地域の農業をけん引するリーダーの育成

教　育　方　法	1　課題解決型学習を基軸として実践教育を行う 2　講義、実習、農家研修を効果的に組み合わせて各人の能力に応じた教育を行う。 3　農業法人経営者、流通販売企業家など第一線の外部講師を活用する。 4　農業経営者育成のためのカリキュラムを編成し必要な免許・資格取得を進める。

重　点　目　標	1　入学予定者の定員確保 2　次代を創造する農業者の育成 3　学習・生活環境の確保 4　生徒の意向を踏まえた進路指導

達成度		
	A	達成(100%以上)
	B	概ね達成(80～99%以上)
	C	不十分(80%未満)

学　校　自　己　評　価								学　校　関　係　者　評　価
年　度　目　標					年 度 評 価 (3月　1日 現在)			実 施 日　令和　4年　3月２５日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 今年度はコロナ禍の中、入学定員を確保することができた。しかし、高い農業技術や経営感覚を身に付けた埼玉県農業の担い手育成を目的とした教育機関として、高校や地域社会における認知度が未だに低い。 【課題】 本校の教育活動について、様々な手法を用いて積極的にPRするとともに、入学定員の確保を継続し、さらに目的意識の高い受験生の確保が求めらる。	入学定員90名の確保	①高校案内の充実 ・県内延べ200校への案内 ・隣接１都５県への案内 ・HP、SNSによる案内の充実 ②入学説明会の実施 ・新型コロナウイルス感染防止対策を徹底した説明会 ③学校紹介（映像）の作成と活用 ④県内農業関係高校生対象体験実習の実施 ⑤地域及び関係機関との連携 ・各種イベントへの参加 ・農林振興センターとの情報交換	①例年と同等のアプローチができたか。 ②入学定員を上回る受験希望者の参加があったか。 ③効果的な映像とその活用ができたか ④受験希望者の増加につながったか。 ⑤現役高校生以外へも積極的な情報発信ができたか。	入学定員90名を確保できた。 ①県内外560校への募集資料の送付と県内約200校への電話連絡、県内農業関係高校9校への訪問、HPによる情報発信42回 ②6・10・11・12月に合計5回実施168名の参加 ③10月にHP公開、再生回数970回 10月以降の学校説明会に活用した。 ④今年度は8月にZoomでのオンライン開催とした43名の参加があった。 ⑤昨年同様新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染防止の観点から、参加を自粛した。また、随時農林振興センターとの情報交換を行った。	A	【課題】 入学定員の確保 【改善策】 コロナ禍の中、状況に対応した情報提供について、さらなる工夫・改善に取り組む。	・入学定員を確保できたのは素晴らしい、今後ともよろしくお願いします。 ・非農家出身が多くなり、農業の未来に対しての考え方、モノづくりの達成感など、他では経験できないことを学習できることを今後もアピールしてほしい。 ・入学定員確保に向けて様々な取組の成果が出ていると思います。特にＨＰやＳＮＳ等を活用した情報発信については、非常に効果が高いものと考えられますので、更なる充実を図っていただきたい。 ・農業はその国を根底から支えている一番大切な産業です。これからの時代は世界的に見ても農産物が確実に足りなくなることが予見できます。その時困らないためのより多くの新しい実践力のある人材を育成することは、重要課題です。そのための活動等色々な方面へ働き掛けている成果が出ていると思います。今後もより一層多くの人材育成を期待します。 ・新型コロナにより募集活動が大変な中様々な工夫かとられ、素晴らしい。 ・今年度も校長が県内関係高校へ出向かれて募集されたこと、新型コロナウイルス禍中、非対面での体験実習など大変な苦労と推察いたします。さらにＨＰでの学校紹介も多方面にＰＲ効果があると評価します。 ・多方面からメディアを活用して広くアピールすることが望ましい。
2	【現状】 高度な農業経営の実践者を育成するために、経営力や技術力の習得を図る教育水準の向上が求められている。 【課題】 先端技術の導入や環境への配慮等時代の変化に対応した農業技術を導入するとともに、導入した技術を活用した授業の充実を図り、先進的な農業体験活動を展開し、農業を取り巻く社会情勢に対応できる農業者の育成が求められる。	①スマート農業技術を活用した授業の実践	①各専攻に導入した先端技術装置（スマート農業化機器）を用いた実習の実施 ②先端的技術（スマート農業）活用関する講義・実演・見学会の実施	①先端技術の活用による効果的な栽培管理の実習を体験できたか。 ②データ計測・分析方法の指導や先端的技術活用に関する講義・技術紹介等の実演・見学会が実施できたか。	スマート農業を活用した授業を実践できた。 ①全ての専攻において、スマート農業に関する体験的な実習を実践することができた。 ②外部講師・外部機関による環境制御の授業又は実習・見学を行うことができた。外部機関への見学又は実習は全専攻最低1回実施した。	A	【課題】 社会変化に対応し、継続的に先端技術を導入し授業に関連付ける。 【解決策】 民間企業や外部講師との連携とスマート農業の推進をする。	・先端的学習を全ての専攻で実施し、夢のある農業を見させていることは大変意義深い。 ・先端技術の習得・学習はこれからの農業経営を展開するうえで極めて重要と考える。 ・スマート農業を応用して、労働力の軽減を具体的に示すことが今後望まれる。 ・最先端の技術に触れることで、新しい農業の形に期待する若者は多いと思います。今後も引き続き積極的な取組を願います。 ・農業の先端技術を実際に見て聞いて知ることで、将来農業で導入するためのハードルがどの程度なのか、どのように役立てるのか等未来を描ける。また、そういった知識をどんどん頭の中に蓄えておくのは、大変重要だと思います。 ・ＨＰを視聴して、直進アシストトラクタやリモコン式自走草刈り機等スマート農業機器実習及び体験実習を授業に取り入れたこと広報活動への参考になりました。 ・外部機関への見学、実習では多くの体験の機会を持ことが有効だと考える。
		②先進的農業体験活動の実施	①新規就農希望者支援 ・チャレンジファーム及びチャレンジカンパニーの実施 ②先進農家体験活動の実施 ③農業認証取得のノウハウを生かした農業実習 ・埼玉県優良生産管理農場 ・有機JAS認定	①チャレンジファーム及びチャレンジカンパニーが計画どおり実践できたか。 ②先進農家体験活動が実施できたか。 ③認証基準に沿った農業実習ができたか。	今年度もコロナ禍の中日程・内容等を工夫しながら実施することができた。 ①計画通り実施することができた。今年度はﾁｬﾚﾝｼﾞｶﾝﾊﾟﾆｰにおいて直売を7日間実施し前年度比150%売り上げた。 ②予定通り58日間で実施した。 ③認証基準に沿った農業実習を行うことができた。継続して有機JAS認証を受けた。	A	【課題】 考えて実践できる生徒の育成 【解決策】 先進的農業体験活動の必要性及び重要性を生徒に徹底的に指導する。	・コロナ禍の中、共存しながらの経営体系の構築を今後も期待します。 ・内容等を工夫しながら、実施できてよかったと思います。今後もコロナ対策等しっかり取りながら実施をお願いします。 ・先進農家体験活動の実施は、他農家の生産システム、農作業の効率化等実地に知ることができるのは大切です。その体験を手本にして、より良いやり方を考え、発展させられればより良い効果となるでしょう。特に、農業生産法人など多人数の農業のやり方等これから大きな農業を目指す学生にはよい体験になったと思います。 ・実践的農業経営が体験できたことにより具体の経営イメージができる良い取組である。 ・先進農家での研修は技術の習得はもちろんこと、人間教育の面からも大切であると思われるので、どんな状況の中でも続けてもらいたい。 ・農業法人等の体験学習は、生徒が将来を考える上に大変参考になると思うので多くの時間を計画することが必要である。
3	【現状】 近年実験・実習における事故はほぼゼロであり、授業の体制、施設や設備など、生徒が実習や学習に取り組む環境の整備は着実に進んでいる。 【課題】 農作業や農業実験を行うにあたり、扱いや操作を間違えると大きな事故につながる器具や装置、機械があり、生徒が安心安全に学習に取り組む環境を維持する必要が常にある。さらに新型コロナウイルス感染予防に対応した教育環境の構築も進める。	農作業実習中の事故ゼロ及び、新型コロナウイルス感染予防	①安全指導の徹底 ・職員研修会の実施 ・実験実習における指導 ②日常的な施設・設備の点検 ・農業機械の点検・整備 ・販売実習棟及び実習施設の適正な管理 ③ICTの活用状況 ・実習・授業での利用 ・デジタルアーカイブ授業の構築 ④新型コロナウイルス感染予防 ・新しい農業大学校5つの安心宣言の徹底	①実験・実習時に安全指導が行われたか。 ②施設・設備の点検・整備が行われたか。 ③円滑な運営・環境整備ができたか。 ④感染者の発生状況及び感染者発生時の対応状況。	昨年同様農業実習中の事故をゼロに抑えることができた。 ①実験・実習時における事故はゼロであった。 ②販売実習棟及び実習施設を適切に管理し、農業機械の点検整備や運転操作の支援も適切に行い事故は無かった。 ③今年度も前後期合わせて２２講座をＩＣＴを活用して、複数の教室に配信した分散授業形式で行った。また、８講座をZoomで録画アーカイブ化準備の資料とした。 ④新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽにおける感染対策マニュアルを随時更新し、感染対策を徹底している。	A	【課題】 農作業実習中の事故ゼロと新型コロナウイルス感染防止 【解決策】 農作業に慣れていない生徒に対し、きめ細やかな指導を行う。また、新型コロナウイルス感染防止の徹底と感染対策マニュアルの定期的な更新をする。	・機械の仕組みをしっかり理解してもらうことが大切である。 ・日頃の安全点検は極めて重要であると考えます。引き続き事故ゼロが続くようお願いします。 ・実習・実験において事故がほぼゼロであったのはよかったと思います。実際に農作業をしたり、機械の整備調整などをしている時ついうっかりしてケガをすることがあります。学生時に、安全指導を学んでおく事で自分の慢心を消していれば、大きな事故も防げると思います。 ・時節柄、安全・安心が求められる状況であり、それらに対応した取組が十分行われ成果をあげた。 ・安全教育は事故がなくて当然としているので日々の積み重ねが重要である。絶対に軽く見てはいけないものである。 ・農業機械点検・整備や作業時、農薬散布作業時については、常に安全の基本を遵守するように実習していると思います。これからも実習施設を適切に管理され事故ゼロでの実習継続を願います。 ・最近の農業機械の進歩は目覚ましいものであると考えるので、その製作工場等の見学なども必要ではないか。
4	【現状】 農業自営を土台とした教育活動を展開してきた中で、近年、農業生産法人や関連産業への就職希望者が増加している。 【課題】 進路別コース学習におけるコース内容を深化させ、生徒の就業意識向上を促す。また、非農家出身者の進路（就職先）を確保するとともに、就農、就職後に必要な農業関連資格を取得させる。	進路決定率100%	①進路指導 ・コース別学習（自営就農・農家子弟・就職就農・関連産業）の実施 ・キャリアコンサルタントによる指導 ・法人を含む就農支援 ・求人件数110件確保 ・農業法人等見学会・説明会 ②資格取得 ・卒業までに農業に関する資格を1つ以上取得させる。	①生徒のニーズに対応した進路指導が行えたか。 ・生徒満足度 ・進路決定率 ②卒業までに農業に関する資格を1つ以上取得できたか。	進路決定率ほぼ100%を達成した。 ①今年度コース別進路学習は、農家子弟を加え4コースとして実施した。生徒の満足度は98%であった。 ②農業機械に関する資格取得について、１人平均2.2個の資格を取得することができた。	A	【課題】 進路決定率100% 【解決策】 生徒への早期進路意識の向上と、支援体制のさらなる充実を図る。	・進路決定率１００％、生徒の満足度９８％は素晴らしい結果だと思います。これからも、生徒のニーズに対応した指導やより多くの資格取得に向けた取組を期待します。 ・コース制を設けられたことにより内容の充実した進路指導が行われ以前よりも意識の高い進路決定がなされたと思う。 ・生徒が多様化する中、コース制の導入は極めて重要である。 ・基本的には親元就農・農家子弟就農が農業の基本技術面や資材の初期投資において、進路選択では有利であり的確であると思いますが、今年度は、早い時期からの進路意識の向上を図られた結果、進路決定につなげられたと評価します。 ・進路の次年度計画を1年後・5年後・10年ごとなどのスパンで計画されてはどうか。また、農業機械以外の資格にも関心を持たせる必要があると考える。 ・進路の決定は多くの農業関係企業、現場を見せて、必要であればインターンシップによる経験も望ましい。 ・シートの全体を通して学校全体で素晴らしい活動が行われていると強く感じる。